

中小企業診断士の視点

第120回 資金繰り改善の第一歩



中小企業診断士 小池 博
(一社)埼玉県中小企業診断協会

月末になると「頭が痛い」「胃がキリキリする」と資金繰りで頭がいっぱいになってしまう中小企業の経営者は少なくありません。中小企業診断士として今は活動しておりますが、私自身も実際に中小企業の経営者です。冒頭にお伝えした状況は自分自身のことであります。

「どうやって資金繰りの改善をしたか」という前に「どうして資金繰りが悪くなるのか」を真剣に考えていきました。その結果、返済金額が、生み出すキャッシュより大きいことが理解できたのです。当たり前のことですが、経営していて資金繰りが厳しくなってくると、金融機関に頼み込み、金利は気にするものの、月々の返済金額や期間のことを考えずに借りてしまっていたのです。金融機関の貸し出し方の多くは、5年返済あるいは7年返済で月々返していくというものです。その都度、資金不足に陥った時に借りていると借入口数が増えていきます。その結果、返済金額が膨らむという悪循環に陥るのです(学び1)。そしてまた借りることの繰り返しです。どうしたらいいのか、ということを考えていた時に、もう一つ学んだことがありました。それは運転資金の計算方法です(学び2)。「運転資金」という抽象的な言葉は多くの経営者は知っています。その計算式が現実には理解できていなかったのです。

$$\text{運転資金} = \text{売掛金} + \text{棚卸資産} - \text{買掛金}$$

そして、この資金は短期継続資金で融資していただくということを学んだのです(学び3)。この短期継続資金は「期間を定めて利子をお支払いし、現金は期日までそのまま借りておく」というものと当時の私は理解しました。そして常に運転資金は必要になるのですから、こうした継続的な借入の方法を知らなかったために、毎月資金繰りで苦しんでいたのです。短期継続融資を実行できるか否かは金融機関の審査等もあると存じますが、自社の運転資金をまずは算出することをお勧めします。それに基づき、長期借入金と短期継続資金とに借入の方法を分けただけで、月々の返済金額が減少したのです(学び4)。まとめると以下ようになります。

1. 金融機関別に借入金額と残高ならびに月々の返済金額を一覧表にする
2. 自社の運転資金を明確に計算してみる
3. 運転資金を短期継続資金に借り換えしたいと金融機関に相談する
4. 現状の返済金額はどのくらいが適切かを計算し、借入の方法別に割り振る

以上、私自身の企業経営や中小企業診断士としての支援経験から得られた学びをお伝えさせていただきました。「財務基盤の強化」という言葉はよく聞かれますが、具体的に何を言うのかは意外と明確になっていません。期首よりも期末に手持ち現預金が増加していることが、経営者の精神状態を平静に保つためにも一番です。

一人で悩まず、中小企業診断士に是非お気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】

(一社)埼玉県中小企業診断協会

ホームページ：<https://sai-smeca.com/>

電話：048-762-3350

Eメール：rmcsai@nifty.com